2017年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

(進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。)

<p>2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項</p> <p><概評></p> <p>研究科では、研究指導計画に基づき、概ね適切な研究指導・学位論文作成指導が行われているが、研究科ごとに精粗があり、より具体的に研究指導の方法及び内容、年間スケジュールをあらかじめ大学院学生に明示することが期待される。</p> <p>前回の大学評価において指摘されたシラバスの精粗は概ね解消されているものの、一部の研究科のシラバスについては内容に精粗が見受けられるため、記載内容の責任主体を明確にし、具体的な改善につなげる体制を整える必要がある。</p> <p>文学研究科</p> <p>シラバスの記載内容に精粗がないように、事前に各授業担当教員に周知し、シラバスのチェックは専攻主任（教務委員）が行っているが、記載されている成績評価の基準や割合が明確でない授業も散見されるので一層の検証及び改善が期待される。</p>
<p>2016年度外部評価委員会指摘事項</p> <p>なし</p>
<p>前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記）</p> <p>4-3-1【現状】《書道学専攻》研究発表会・報告会を実施しているので、次年度の作成時には付加したい。</p>

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学研究科
評価基準4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法【自己評定 S】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<p>文学研究科の教育方法および学習指導は全体として適切と判断する。5 専攻に共通する教育方法および学習指導はおおむね次の通りである。</p> <p>全学共通の書式によるシラバスを作成し、シラバスで示した授業内容・授業形態（演習・講義・実習等）によって授業を行っている(A4-3-1、B4-3-7)。演習科目では、少人数の授業形態により学生の主体的参加を促す授業方法のもとに、厳密な文献読解能力および学術論文作成能力を涵養する学習指導を行い、講義科目では、専門知識および研究方法等が教授され、学生の研究能力を養成向上させるよう、学習指導を行っている。研究指導および学位論文作成指導は、演習科目において、研究指導計画に基づいて実施している（B4-3-6）。院生各自がテーマを設定して自ら研究・報告し、さらにそれを検証することで、主体的な学びが実現されている。</p> <p>なお、教育学専攻は、上記の授業形態のほかに、実践総合研究、特殊講義、研究指導という授業を行っている。実践総合研究では、教育実践の現場を見学し、また現職教員を講師として教育現場の具体的な課題などについて紹介してもらい、その解決方法などについて意見交換し、実践的な研究の基礎を提供している。特殊講義では、各専門領域から教育の諸現象に対する新たな視点を提供し、研究の方法などについて基礎的な認識を養うことができるよう工夫している。そのほかに、留学生が多いため、</p>
-------	---

	日本語の指導を含めて授業を展開するように工夫している。研究指導では学位論文作成指導を行っている。学生の主体的参加を促す授業方法として、プレゼンテーションによる発表や講読部分のレポートをあらかじめ作成した上で授業に臨むよう指導を行っている。
4-3-1	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 学習指導の充実について【×】 具体的事例：</p> <p>(3) 学生の主体的参加を促す授業方法について【×】 具体的事例：</p> <p>(4) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導について【○】 具体的事例：学生には研究計画書を提出させ、個々の学生と教員の緊密な連携において指導が行われている。</p>
4-3-2	文学研究科の5専攻の授業は、すべてシラバスに基づいて展開されている（A4-3-1、B4-3-19）。シラバスの記述に精粗がないように、事前に各授業担当教員に周知し、シラバスのチェックは専攻主任（教務委員）が行っている。各授業の内容と方法はシラバスに沿って、適切に実施されている。
4-3-2	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) シラバスの作成と内容の充実について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 授業内容・方法与シラバスとの整合性について【×】 具体的事例：</p>
4-3-3	文学研究科の5専攻の授業の成績評価と単位認定は、規程に従って適切に行われている（A4-3-13 第13条）。シラバスに成績評価の方法・基準が明示され、学生はWeb上で確認できる（A4-3-1）。教員は方法・基準に従って、厳格かつ適切に評価している。
4-3-3	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）について【×】 具体的事例：</p> <p>(2) 単位制度の趣旨に基づく単位認定について【×】 具体的事例：</p> <p>(3) 既修得単位認定について【×】 具体的事例：</p>
4-3-4	<p>文学研究科の5専攻は、それぞれ、授業の内容および方法の改善を図るために、各専攻協議会において継続的に議論を行い、議論で得られた結果が以後の改善に反映できるように努めている。</p> <p>組織的研修・研究については、2013年度に文学研究科のFD委員会を発足させ、文学部のFD委員会と共同で、FD研究会を実施した（B4-3-45）。「学生による授業評価アンケート」は、研究科では実施されていない。その理由として、近年の院生数の減少があり、極端な場合、1～2名の院生による授業評価アンケートは、その母数の少なさによって、無意味になることも考えられるとの意見が出ており、実施の可否自体についての再検討を要するという意見が多くなっている。責任主体・組織、権限、手続きについては、文学研究科委員会の下に組織されたFD委員会が、授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の責任主体となっており、いずれも明確である。</p> <p>なお、教育学専攻には、独自にFD委員会が設けられており、毎年、修士1年生および大学院担当教員の参加のもとで修士論文の発表会を実施し、発表会の後、FD研究会を開催し、論文指導上の課題やカリキュラムの問題など多面的な課題について意見交換を行っている（B4-3-46）。その際に例年、教育学専攻が抱える課題についてFD委員から問題提起をしている。</p>
4-3-4	<p>以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。</p> <p>(1) 授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について【○】 具体的事例：2017年度から、文学研究科独自のFD委員会による研究会を実施する。</p> <p>(2) 教育方法の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：</p>

【効果が上がっている事項】

4-3-1	院生主体の文学研究科合同の「研究発表交流会」も企画、実施されている。各専攻から1名の研究発表者を選出し、研究発
-------	---

	表を実施している。先行分野が異なるものの、相互横断的に刺激を受ける良い機会であり、昨年度は、7月に実施したが、今年度は2018年3月実施予定である。
4-3-2	各専攻主任がシラバスをチェックする態勢が出来上がっている。
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	4-3-1 シラバスに沿った授業内容・授業形態(演習・講義)によって授業を行っているかどうか、文学研究科FD委員会での検討を経て、統一基準により検証されるシステムを構築する。	シラバスに沿った授業内容・授業形態(演習・講義)によって授業を行っているかどうかを統一基準により検証するシステムが構築されている。			B	S	
	4-3-2 シラバス記載内容の整合性を更に厳密に確認する。	シラバス記載内容の整合性が更に厳密に確認されている。			A	S	
	4-3-4 学部で行っているような学生による授業評価アンケートを実施するかどうかの検討を開始する。	学生による授業評価アンケートを実施するかどうかの結論が出されている。			S	S	
16年度目標	4-3-4 学部で行っているような学生による授業評価アンケートを実施するかどうかの検討を開始する。	学生による授業評価アンケートを実施するかどうかの検討を開始したことが、文学研究科委員会で報告されている。			S		
17年度目標	4-3-1 シラバスに沿った授業内容・授業形態(演習・講義)によって授業を行っているかどうか、文学研究科FD委員会での検討を経て、統一基準により検証されるシステムを構築する。	シラバスに沿った授業内容・授業形態(演習・講義)によって授業を行っているかどうかを統一基準により検証するシステムが構築されている。				S	
	4-3-2 シラバス記載内容の整合性を更に厳密に確認する。	各専攻内において、シラバス記載内容の整合性について確認されたことを、文学研究科委員会において報告する。				S	

IV 評価専門委員会所見

4-3-1【現状】 厳格な形で教育・研究体制が構築されている点は高く評価できます。研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導について、この取組が継続的な取組であれば、その成果を記述してください。
4-3-4【現状】 研究科独自のFD委員会の組成、またFD研究会の実施といった新たな取組は、他研究科の模範となるものであり高く評価できます。

V 所見への対応

4-3-1【現状】 英文学専攻では、指導計画による研究指導・論文作成指導は、年度開始時期、夏季休暇前(シンポジウムにむけた中間発表)、11月のシンポジウムでの発表、「ポローニア」への論文掲載等、継続的な指導が実施されている。その他の各専攻においても、継続的に、また、着実に、毎年、修士・博士を送り出している。
4-3-4【現状】 文学研究科FD委員会主催により、2017年前期は5専攻から各1名の教員が「修士論文指導」について発表報告し、活発な質疑応答があった。

VI 次年度への課題

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

- A4-3-1 大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）
大東文化大学ホームページ（Web シラバス）
<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html> ≪既出≫A4-2-16
- A4-3-13 大東文化大学大学院学則 ≪既出≫A1-2
- A4-3-14 2017（平成 29）年度 大学院の手引き ≪既出≫A1-17
- B4-3-6 研究計画書（書式）
- B4-3-7 2017 年度文学研究科科目編成表 ≪既出≫B4-2-5
- B4-3-19 2017 年度シラバス（授業計画）の作成依頼について
- B4-3-45 文学部 FD 研究会資料
- B4-3-46 文学研究科教育学専攻 FD 活動記録
- B4-3-53 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html> ≪既出≫B1-16
- B4-3-55 大学データ集 ≪既出≫B1-22

〔追加資料〕